平成 22 年 6月 1 日
第 37 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

渡り板改修で水路管理をより安全に

田植え作業の始まる前に、通算４カ所目となる横断渡り板の改修を行いました。

用水路の横断のために架けられていた渡り板を今までにも改修してまいりましたが、一番北側の悪水路への降り口が残ったままになっていました。この箇所は様々な事情があってこれまで、古い枕木を利用した危険な状態のままでした。当会では、対策を検討を重ねてきましたが、ようやく条件その他が整い、改修することになりました。

作業は新しい渡り板を設置すると同時に、古い枕木を撤去する必要がありました。いくら強い枕木でも長い年月には、腐食などでやせ細っており、実際の使用には耐えられない状況となっていました。ロープをかけて一気に引き上げ、チェンソーで分割しました。

新しい渡り板には歩行面に滑り止めを設け、手すりも片側につけましたので、歩行の際の安全性は大きく向上したと思います。



古くなって傷んでしまった枕木を利用した渡り板。４人がかりで引き上げる。



塗装は見た目の問題だけでなく、錆の発見にも役立つ

新年度予算案を承認

平成22年度八方原の環境を守る会総会が5月26日行われました。平成21年度の事業報告と収支報告、並びに平成22年度の事業計画案と予算案が議題となりました。

この事業は国の農地・水―環境保全向上対策に従うものですが、農作業の安全と効率化、環境の保全と向上を目指して平成19年より始まりました。世界全体の人口増加による食料事情の悪化に備えていつでも食料の増産が出来るように農地を保全するというのが基本の考えです。収入の基本は交付金です。対象となる面積に応じて算定されています。昨年度までは１０３万円余りの収入でしたが、平成22年度は対象面積の拡大により14％程度増える予算となっています。

今年も取り組み姿勢に変わりはありません。より良い農地と農作業環境の確保に、会員各位のご協力を頂きながら今年も、努力してまいります。

運動会でさらに強まる地区の輪



男子の迷足競争、歩調のリズムが合わせながら

5月16日、小郡スポーツフェスティバル大運動会が行われました。心配された天候も暑いほどの日差しとなり、28チームが熱戦を繰り広げました。八方原チームも地区対抗リレー以外は全て出場し、奮闘しましたが、28チーム中25位の結果に終わりました。

結果はそれぞれ運不運もありますので、大きな意味はないと思いますが、日頃顔を合わせないお隣さんとも、同じテントの下で一緒に過ごすことができたのは、とても有意義な時間ではなかったかなと思います。

競技ではいろいろなハプニングがありました。「すみませんでした」という競技では区長が他のチームの選手とじゃんけんをすることになっていますが、八方原チームの区長は他チームの勝利に大きく貢献するほどの、弱いじゃんけんでした。

当初出走できないと思われていた女子のムカデ競走も、急遽チームを編成し奮闘しました。

競技が終わってからは慰労会を公民館の外側で行いました。いつもと内容を変えてバーベキュースタイルの慰労会として、お互いの健闘を称えあいました。


バーベキュースタイルの慰労会

非常時に備えての防災活動

八方原消防組


石田組頭の指示で作業が始まる

5月9日、八方原消防組は防災活動として、土のうを作製し地区内の危険か所にそれぞれ配備しました。

土のうは駅南地区の下水処理場で袋詰め作業を行い、団員は手分けをして運びました。

昨年は7月に大きな水害が発生しました。今年もこうした災害がないとは言えません。出来るだけの備えは欠かせません。

利用者低迷で路線バスが廃止に

定期バスの路線が廃止となるようです。2年前に県道側から地域内の停留所が移設された、新山口駅から県庁までの路線バスが、利用者の低迷で路線そのものを廃止することになります。以前より利用者の低迷で存続が危ぶまれていましたが、運営するバス会社はこれ以上の維持は難しいと山口市に通知してきたとのことです。

市の公共交通担当課が、事情を説明をしましたが早ければ今秋、遅くとも来春には廃線となることは避けられないようです。路線バスが利用できなくなるので、タクシーチケットを、申請されたグループに提供する「グループタクシー実証実験」が実施される予定です。これは65歳以上の方で福祉タクシー券などの利用者でない方が4人以上のグループを作っていただき、その仲間で利用していただくというものです。詳細は担当課が説明を行う予定ですので、利用のご希望がありましたら、区長までお申し出ください。



折角の路線バスだったが